

津山市及び周辺地域における子ども文化ボランティア活動のネットワーク化

中田 稔・加藤 泰三

Minoru NAKATA and Taizou KATOU

1. はじめに

(1) 研究目的

津山市及び周辺地域における、お話会や子ども劇場、子育てサークルなど、子どもの文化に関わる各種ボランティア団体の実態を把握し、ネットワークを整備することにより、地域のボランティア組織自体の活動の活性化を促すとともに、利用者の利便性を高める。

(2) 研究計画

① 取材・調査

- ・ 先進的取り組みをしている「福井県子ども文化ボランティアネットワーク」について取材する。
- ・ 津山市及び周辺地域の子ども文化に関係する諸機関の数や状況を調査する。

② 連携準備

- ・ 子どもの文化に関わる講演会等を開催し、参加を募り、ネットワーク化の土台作りをする。

③ 報告

- ・ 研究所公開研究会や研究所所報で、成果を報告する。
- ・ 美作県民局・協働推進室へ報告

2. 取材・調査研究

(1) 「福井県子ども文化ボランティアネットワーク」

平成 17 年度に文化庁委嘱事業を受け、「ふくいアートボランティア環境整備事業」の一環として、福井県子ども NPO センターが、平成 17 年 3 月に『こども Channel』を発行している。この冊子には、子どもの文化に関わる、お話会や子ども劇場、子育てサー



クルなど、福井県内 65 団体が掲載され、それぞれの活動場所や活動内容、連絡先等が記載されており、公演等の依頼があれば、活動団体が相互に行き来できるようになっている。

図 1 『こども Channel』

(2) 津山市及び周辺地域の関係諸機関

津山市でも、平成 15 年 3 月に「つやま市民活動センター運営委員会」が『津山市ボランティア・市民活動団体紹介名簿』を発行し

ている。この冊子には、87 の団体が掲載されているが、子どもの文化に限定されたものではなく、福祉・環境・地域づくり等の分野にわたって紹介されている。

また、より詳しい情報を得るために、津山市コミュニティセンター事務局長の村上氏に話を伺った。そこで、美作県民局管内の NPO・ボランティア・行政の交流、相互理解、協働の推進を図るために平成 18 年度より「美作ボランティア・NPO 交流メッセ」が、管内 3 地域（「交流メッセ・つやま・まにわ・しょうえい」）で開催されていることを知った。第 1 回の「交流メッセ・つやま」の概要は、次の通りである。

・「交流メッセ・つやま」

平成 18 年 9 月 2 日（土）・3 日（日）開催

対象地域 津山市・鏡野町・美咲町・久米南町

会場 津山市コミュニティセンター「あいあい」

分野 福祉・環境・地域づくり・イベント・子ども

そして、この取材を通して、存続自体が危うかったり、現状の活動で手一杯であったりするボランティア団体が多いことや、子ども自身の多忙化や、お膳立てされたイベントへの参加に終始するだけの参加者が多いことなど、課題が山積していることが分かった。そこで、「はじめにネットワーク化ありき」ではなく、津山市及びその周辺地域のボランティア団体の現状をまず把握して、本当に各々が、ネットワーク化の必要性を欲しているかどうかから調査し直すこととした。

3. アンケート調査

(1) アンケート調査の概要

① アンケート

「子どもや子どもの文化に関わる活動について」

② 目的

津山市及び周辺地域における子ども関係団体の現状や主催者の意識を調べ、子どもボランティア活動の課題を探る。

③ 実施時期

平成 20 年 3 月

④ 実施対象

津山市及び周辺地域における子ども関係団体 62 団体

（内訳 子ども文化活動団体 30・放課後児童クラブ 32）

⑤ 方法 郵送調査

(2) アンケート結果

- ・回収率 … 50% (全体)
 - 子ども文化活動団体 76.6%
 - 放課後児童クラブ 25.0%
- ・質問項目別集計結果
 - A … 子ども文化活動団体
 - B … 放課後児童クラブ

① 会員数 (%)

		A	B	合計
ア	5人以下	13	0	9.7
イ	6～10人	26.1	0	19.4
ウ	11～20人	13	12.5	12.9
エ	21～30人	13	62.5	25.8
オ	31～40人	13	0	9.7
カ	41～50人	4.3	0	3.2
キ	51人以上	17.4	25	19.4

②活動場所 (%)

		A	B	合計
ア	岡山県内全域	26.1	0	19.4
イ	津山市内全域	34.8	12.5	29
ウ	津山市内の一地域	13	62.5	25.8
エ	津山市以外の地域	43.5	12.5	35.5
オ	その他	17.4	12.5	16.1

③活動内容 (%)

		A	B	合計
ア	お話し会・読み聞かせ	34.8	0	25.8
イ	絵画・工作・玩具	34.8	0	25.8
ウ	演奏・合唱	17.4	0	12.9
エ	音楽鑑賞	4.3	0	3.2
オ	子ども劇場	13	0	9.7
カ	劇団	13	0	9.7
キ	人形劇	30.4	0	22.6
ク	自然観察	8.7	0	6.5
ケ	歴史探訪	0	0	0
コ	子育てサークル	13	0	9.7
サ	学童保育	8.7	100	32.3
シ	その他	52.2	0	38.7

④ 悩み・問題点 (%)

		A	B	合計
ア	会員の確保	34.8	0	25.8
イ	活動場所の確保	17.4	37.5	22.6
ウ	活動資金の確保	60.9	25	51.6
エ	活動時間の確保	17.4	25	19.4
オ	指導者やスタッフの確保	30.4	100	48.4
カ	活動内容の創意工夫	34.8	0	25.8
キ	安全面の配慮	13	37.5	19.4
ク	活動の広報・周知	34.8	0	25.8
ケ	会員相互のコミュニケーション	4.3	25	9.7
コ	行政の対応	26.1	50	32.3
サ	地域との連携	34.8	37.5	35.5
シ	活動に関する情報の不足	26.1	0	19.4
ス	その他	13	0	9.7

⑤ 現在の連携 (%)

		A	B	合計
ア	行っている	78.3	75	77.4
イ	行っていない	21.7	25	22.6

⑥ 今後の交流 (%)

		A	B	合計
ア	積極的に交流したい	39.1	37.5	38.7
イ	できれば情報交換以上	17.4	12.5	16.1
ウ	情報交換程度はしたい	39.1	37.5	38.7
エ	特に交流は望まない	8.7	0	6.5

⑦ ネットワークの必要性 (%)

		A	B	合計
ア	必要である	73.9	75	74.2
イ	必要ではない	8.7	0	6.5
ウ	わからない	17.4	25	19.4

・記述による回答内容

① 現在の連携について

- ・イベントや研修会に参加して情報交換をしている。市内で行われるイベントの実行委員会に参加して企画をしている。
- ・2ヶ月に1回定期的に情報を他団体へ送付している。
- 岡山県演劇ネットワークの運営に携わり情報交換をしている。
- ・つどいの広場ネットワークなどの会に参加している。
- ・実行委員会や委員会に参加している。研修会や行事に

参加している。

- ・つやま NPO 支援センターを通じて交流や情報交換を行っている。
- ・関係機関・団体との情報交換を随時開催している。
- ・合同研修会、連絡協議会等。
- ・年に一度中四国おもちゃ図書館研修会に参加している。
- ・イベントに参加して情報交換をしている。
- ・町内のボランティアグループ連絡会とか、津山教育事務所での読み聞かせグループの交流会
- ・交流メッセ勝英（美作県民局との協働事業）
- ・他団体と情報交換（キャンプ、旭川筏下り他）
- ・津山市学童保育連絡協議会に加入、毎月定例指導員および理事会、また研修等に参加している。
- ・読書活動グループなどとの交流会、研修会、イベントの参加。HP での情報収集。

② 今後の交流

- ・協働して行うイベントが定期的に行いたい。ホームページでリンクして情報がまわるようにしてほしい。
 - ・団体運営に関する意見交換の場がほしい。
 - ・テーマにこだわりはないが、顔の見える関係づくりをすることにより、協働の足がかりをつくる必要がある。
 - ・合同研修会ができればうれしいです。
 - ・それぞれの特性を生かし目的達成に向け役割分担を確認し、津山市の子育て支援を官民ともに互いの目標を定めていくような交流。
 - ・定期的にすることは難しく、自分たちの活動をメンバーの都合を合わせるのに苦労しているので、多くのことを望めないが、少しでもよい刺激やアイデアの素となるような事に出会いたいと思っていますが、研修会やイベントも場合によって参加したいと思います。人の和も広がることが望ましいと思います。
 - ・地域の組織（老人会や公民館の講座など）との交流を定期的に行っているが、もう少し回数を増やしていきたい。
- 他の学童での実習など。

③ 自由記述欄

- ・インターネットに情報を集め誰もがかきこみができ情報をダウンロードできるなど共有できるシステムを作してほしい。
- ・気軽に参加できる自己表現の場を提供していきたいと思っています。他団体、特に演劇以外のジャンルとは交流を持つ機会が少ないので、その様なチャンスを持ちたいと考えております。
- ・子どもの真の居場所は「子どもが子どもの時間を過ごせる場所」すぐ結果のみにない子育てや、少しずつゆっくり成長する子育ての大切さを、子どもたちやその保護者に伝えていく場が地域にたくさんできることを願っています。そのためには、心響きあう大人を地域に育てることが必要だと実感しています。
- ・子どもに関する活動分野では、各々のグループの基礎体力が弱い場合が多く、メンバーの代謝（子どもの年齢に応じて）も激しい。
- ・グループの継続も問題がある場合が多い。大きな枠組み（しかし、ゆるやかなもの）が存在し、新旧グループやそのメンバーの活動の

充実に力を貸すことができればよいのだと思う。

- ・私たちが開催しています親子ふれあい広場には毎回20組から50組の親子が参加してくれて、とてもやりがいを感じていますが、たくさんの親子が喜んでまた期待もしながら参加してくれているので私たちスタッフ、ボランティアは心して対応、接していかなければと話しているところです。やはり、ボランティアといえども研修はかせないと思います。

・核家族が増え、共働きの家庭も多い中で、子どもが育つ時間をまわりの大人たちが大切な時間として育んでいくことを切に願うところですが、親だけでは無理な現実があります。子どもたちと関わる大人たちが子どもの心や身体の成長を大切な時間として見守っていかれたらと思っています。泣いたり笑ったり怒ったりと、素直にありのままに感情を表現する子どもたち。なかでも子どもたちの輝く瞳、あふれる笑顔に出会えることは、とても喜びを感じています。私たちもこの活動を通して、お互い身体と心を響かせあいながら、小さな輪を広げていきたいと思っています。

- ・「子どもの文化」って何でしょう。考えても分かりません。私は子どものみの（単純な）文化なんてないと思っています。子どもは家庭地域の影響をストレートに受け、素直に表現しているのではないのでしょうか。今、子どもたちに起こっている様々な問題は、私たち大人が変わる努力をしないと現状では益々エスカレートしていくと考えます。子どもたちに楽しいイベントをとその活動の一翼を担っても、その場限りと思われ、後に残るのはこれでよいのかという空しさだけです。では、どうすればよいのか、分からないので悶々としています。私たちにできること、それは、保護者が学校参観や講演会に参加しやすく支援することが身の丈にあった子育て支援と考え活動しているのです。

- ・取り組みはいいことだと思いますが私たちのグループは津山市立図書館内での活動に限っていますので今の活動のままでいいと思っています。一般的には地域の子どもや子ども文化に関わる団体が情報交換や研修は必要だと思います。

- ・私たちのグループは地域の幅広い参加による交流の場となるようスタートしたが結果的には小学校の放課後の子どもの居場所となっている。親は愛情で地域は知恵で子どもを育てることがよいと考えている。

- ・少子化の子どもたちの社会が不安にさらされています。（心も体もすべてが）昔のような地域社会で暮らせるようにわが子も他人の子も声をかけ、ほめたり、しかったりできる、あいさつが自然にできることが必要ではないかと思います。子どもたちが成長する上でたくさんの人や、いろいろな行事、出来事などのかわりが大切です。一つのグループではほんとに小さな事しかできませんが、手と手をつなぎ社会を支えていければうれしいことだと思います。ボランティアをしていることで本当に私たちはたくさんの元気をもらっています。美作地域でただ一つの大学として、これからも地域を支えてくださいますよう、益々のご活躍をよろしく願います。

- ・子どもが大きくなるには、お年寄りの力が絶対必要だと思います。ことばや文字では表せない伝えねばならない、いたわりや信頼の心や使ったものは元に返すといったあたりまえのマナー等、現代の人

がなくしてしまったものを子どもたちに教えられるのはお年寄りとの関わりが一番必要だと思います。読み聞かせや工作等も子ども、親、お年寄りと一緒にできたらいいと思います。

・呼ばれればどこへでも行って、生の舞台の感動とブラックライトシアターの等身大の人形劇の迫力を直に感じてもらいたいと思っていますが、皆がよくわかる冊子やパンフレット作り、ホームページやリンクなどして、市役所のホームページなどから見られるようにして頂いてどんなボランティア団体があって、場合によっては連携できることもあり、有意義な活動を展開できることを願っています。また、行政との連携は今後の子育て支援にとって、バックアップや活動を生かす上でも互いに必要だと思います。

・まだまだ他にもたくさんの活動グループありますよ。「おはなしPONちゃん」は図書館や小学校への読書活動を行っています。より分野別に分けた研修会の方が参加は多いです。

・各団体が積極的に交流情報の交換はできつつあります。冊子よりもHPなどサイトでの充実を望みます。情報は日々更新していきますので。

・子どもの文化活動の啓発、拡充は子どもの感性を豊かにし人間性を育む上でとても大切だと思います。同時に子どもたちが文化を享受するためには、子どもの基本的人権が尊重される、されている地域であることが前提だと思います。子どもの文化活動に関わる大人たちの人権意識を高める学習の場も必要と常々考えています。

・教育と文化をもっと結びつけて考えていくと、より幅の広いものがうまれてくるのでは。地元文化の掘り起こしをする中で、子どもたちに伝えていくものが出てくるのでは。

・子どもたちに興味がわくような活動を紹介したり参加することを進めていきたいと考えていますが、会員の人数が多く、なかなかまとまりません。興味がもてる人数割りをしながらの活動が中心となっています。

・子ども文化とはどのようなことを指しているのか（遊び？）具体例等が記載されていないので、よく分からないという回答になってしまいました。個人的な意見ですが、地域連携、交流、伝承、等の名のもとに様々な取り組みを年々しています。以前こちらの方にも地域の方が昔の行事などの伝承に來たいとの申し入れがあり協力する返事をしましたが、未だ何の連絡もありません。また、子どもたちは学校から学童保育の場へ戻ってきて着替え、宿題、おやつと父兄の迎えまでにすべきよい習慣をゆとりをもってきちんとする時間でいっぱいです。彼らは忙しすぎます。主体は誰なのか？何が優先されるべきなのか、私自身は疑問を感じています。行事をすれば子どもは育つのか？それよりも「生活」のできない子どもが増えていくことを心配しています。特に子育て支援というところでは働く母、祖母がほとんどのため日常生活の些細なこと（大人になって当然知っておくべき事で自分の生活を守るもの自立の基礎）が大切にされていないことを残念に思っている一人です。

・徐々にではありますが、「学童」の社会的位置が重みを持ってきたとは思いますが、まだまだ、特にこの田舎での認知は少なく、妥協の部分も多いのも確かです。大きな力をつくり、地域に、社会に行政に、働きかけをし、居場所づくりを確実なものにしたいと願

います。特に労働条件の改善を早急に、手厚い保育ができるよう、指導員の十分な確保をしたいと思います。

・一回限りとかではなく、継続して行われるものにしてほしいと思います。今の子どもたちの様子、現状をいろんな場所に出向いて把握して活動してください。アンケートだけでは分からないやはり現場の声が大切だと考えます。見て、聴いて一実行

4. アンケート調査

「悩み・問題点」という設問への回答を概観すると、以下のような傾向を認めることができる。まず、「子どもの文化活動」分野においては、「活動資金の確保」に関して最も高い関心が示され、次いで「会員の確保」、「活動内容の創意工夫」、「活動の広報・周知」、「地域との連携」が同数で比較的回答数が多く、逆に「会員相互のコミュニケーション」「安全面での配慮」「活動場所の確保」「活動時間の確保」などは比較的回答が少ない。

以上から、これら団体においては、比較的安定した活動が行えており、現状を維持するうえでは特に問題を感じていないが、現状維持だけでは不十分と感じていること、また現在よりも活動の社会的認知度や社会的な立場を向上させたいという志向をもち、そのために活動の幅を広げたいとの希望を抱いていることが伺える。

一方、学童保育の分野においては、殆どの選択肢において回答数が少なく、「指導者やスタッフの確保」のみが突出している。（これは「子どもの文化活動」分野でも比較的多い回答であるが、学童保育の分野での回答率、100%に及ぶものではない。）

この分野においては、活動の現状維持に必要な時間・空間・資金はある程度担保されているという背景がある反面、不可避免地に活動が義務的になってしまうため、マンネリ化しようとも活動を継続してゆかねばならず、事業企画、指導者、そして負わされる責任に対して十分なスタッフの確保に対する要望が高いものと見られる。そして次に比較的多い回答としては「行政の対応」「地域との連携」が挙げられるのだが、興味深いのは、これら学童保育の分野における回答率の高い選択肢への回答が「子どもの文化活動」分野においても、上位とは行かないまでも、やや回答率が高いという点である。

これらのことから、いずれの団体においても、現状の維持だけであればある程度安定した運営を継続できていると感じているが、一方で、現在の運営内容だけでは不十分と感じているということ、そして、運営の展開の方向として、地域社会における認知度の向上と、地域社会における確固たる役割を得ることを志向しているということが言えるだろう。

このことは、「ネットワークへの期待」という質問事項においても、ほぼ同様の回答傾向として現れている。

ただ、このような志向性を持ちながら、団体の多くが自らの活動に十分な自信を持ってはいないようである。そのことは「悩み・問題点」の設問における「指導者やスタッフの確保」への回答率の高さ、「ネットワークへの期待」の設問における「指導者やスタッフの相互交流」「活動に関する情報収集」さらには「地域や地域間の連携」の回答率が高い点にも現れている。ここからは、自分たちの志向性そのものが正しいのかどうか、それ自体に対する疑念、不安

や迷いを感じ取ることができる。

そのため、「冊子の利用」「インターネットの利用」「イベントや研修会への参加」という設問では「積極的に利用したい」「できれば利用したい」両方をあわせると、「利用したい」との回答の率が非常に高くなっているのである。

すなわち、おそらく、これらの団体が最も欲しているのは、自らの活動を社会的に意義深いものとして継続しつつ深めてゆくための、「知」の要素である。

その活動を発展的に継続させてゆこうとするなら、活動の基盤、根拠を与える哲学や、実践の方法における心理学や教育学、そして活動維持のための経済学、社会における位置づけを行うための社会学など、多くの人文科学的な「知」の基盤が必要であると感じていることが、「情報交換」や「情報収集」という設問への回答率の高さ、一方で全面的な交流に対してはやや消極的な姿勢を感じさせる回答の率もまたある程度高いという事実からもうかがい知れる。

私たちは、情報交換のネットワークの構築を通じて、様々な団体の活動がより活性化されるのではないだろうかとの期待に基づき、このアンケートを実施したのであるが、今回の回答を通じては、ネットワークがあれば事足りるわけではなく、少なくとも現状では、おそらくは現実の社会的な問題意識にも影響されて、各団体においてもその活動に若干の不安や迷いが存在することが見て取れた。だからといって、ネットワーク構築の必要性が減じるわけではないのだが、現状で構築されるべきネットワークは、単なる情報交換のための場としてではなく、このような「知」をそのコンテンツに含む、啓蒙的なものとせざるを得ないのかも知れない。